

安川電機(6506)



－ 円高によるマイナスあるもトップラインは堅調 －

安川電機が20日に発表した上期決算は、売上高が前年同期比9.8%減の1876億円、営業利益が同27.2%減の138億円と減収減益となりました。しかし、売上高は円高で会社計画を下回ったものの、営業利益は計画を上回って着地しました。為替の影響（売上高で189億円、営業利益で58億円）を除いてみると、売上高は前年上期からほぼ横ばいで、営業利益は最高だった前年上期を小幅に上回ることから、本業そのものは引き続き堅調だったといえます。

通期の業績予想は下期の為替の想定レートを円高方向に見直したことから売上高で100億円下方修正（4000億円→3900億円）されましたが、営業利益は280億円で据え置かれました。ドル円を110円から105円へ、ユーロ円を125円から115円へ修正したことで円高による営業利益に対するマイナス影響は66億円から109億円へと40億円強も拡大する見通しとなりましたが、売り上げの上振れや新製品拡販による付加価値増でこれをカバーする格好となっています。

このようにトップラインは想定を上回って推移していますが、これは中国でスマホや自動車、電子部品関連での旺盛な設備投資需要を受けて制御装置（ACサーボモータ）の販売が伸びているためです。その背景には、中国ではインフラ関連などで依然厳しい環境が続いているものの、元安により輸出が伸びていることや、政府が工作機やロボット、EV向けなどに補助金を出していることなどがあるようです。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会